

骨盤臓器脱に対してロボットで行う手術、
ダビンチ支援腹腔鏡下仙骨腔固定術、を開始しました。

骨盤臓器脱とは、子宮や膀胱、直腸などが腔に下垂して腔外に出てくる病気です。
出てくる臓器によって、子宮脱、膀胱瘤、直腸瘤と呼ばれ、骨盤の筋肉や靭帯などの
組織が弱くなってしまうことが原因です。



治療方法としてはリングを腔内に入れる方法がありますが、根治的な治療は手術になります。手術の方法には色々ありますが、従来の方法は術後の再発率が高いことが問題となっていました。そこで再発率が低く低侵襲な術式である腹腔鏡下仙骨腔固定術が2014年に保険適応となり、**ロボットで行う新しい術式 ダビンチ支援腹腔鏡下仙骨腔固定術が2020年に保険適応となりました。**この術式は、お腹に小さな穴をあけ、メッシュで腔を吊り上げお尻の骨に固定する手術です。**傷が小さいので術後の痛みが軽く、再発率は最も低く、臓器脱の症状がすみやかに改善します。**

骨盤臓器脱で悩んだり我慢している症状を手術で治して、より良い生活、より良い人生を過ごすための手術です。

手術ご希望の方は、まずはお近くの産婦人科を受診のうえ紹介状を持って秋田大学産婦人科外来へいらしてください。

